

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-306	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Treatment Resistant and Resistant to Treatment? Evaluation of 40 Alcohol Dependent Patients Admitted for Involuntary Treatment. 治療抵抗性および治療に対する抵抗？ 不随意治療に入った 40 人のアルコール依存症患者の評価。		
執筆者		
Dore G, Sinclair B, Murray R.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2016 May;51(3):291-5.		
キーワード		PMID:
薬物・アルコール治療 (IDAT) プログラム、コミュニティ治療		26362017
要旨		
<p>目的: 不随意的薬物・アルコール治療 (IDAT) プログラムから退院した重篤なアルコール依存症患者のグループの臨床転帰を述べること。</p> <p>方法 入院患者 IDAT プログラムに入院した 40 例の患者は、標準化されたアンケートを使用して、6 ヶ月間前向きに追跡された。</p> <p>結果 患者は、精神・健康併存症 (97.5%)、大脳皮質萎縮 (40%) と社会経済不利な点 (92.5% は公的援助受益者) に関して高率であった。退院 6 ヶ月後に、25% の患者は断酒が続き、コミュニティに住んでいた。そして、17.5% はアルコール摂取量を顕著に減らしていた。更なる 7.5% は、不随意的入院のため断酒状態であった。患者の合計 10% は死亡し、40% は再発または追跡不能だった。 17 人の断酒またはコミュニティについての患者では、入院者数と入院日数がそれぞれ 51% と 45% 減少した。患者群の合計 82% は、Assertive Community Treatment (ACT) チームと活発に関わっていた。</p> <p>結論: 患者数は少ないが、治療に対する反応は患者の 42.5% で明白であった。そして、その人のほとんどは ACT で追跡されていた。不随意的治療や積極的コミュニティ治療による結果であるか否かについての比較群との評価が必要である。</p>		